

平成24年度静岡県審判員・記録員伝達研修会

平成24年2月25日(土)26日(日)の2日間にわたり、浜名湖ロイヤルホテル他にて標記研修会が開催された。この研修会は、静岡県ソフトボール協会の役員や各委員会、県下各支部の審判員・記録員の代表者らが一堂に会し、毎年この時期に開催している。研修に先立ち行われた開講式で、栗原貞秋・県ソ協会長は、「選手たちを一番身近で手助けできるのが私たちだ。楽しくできる雰囲気作り、そして情をもって接することで、ソフトボールの発展に繋げ、徳育に導くことができれば。」と話し、連携よく助け合い教え合うことで全体のレベルアップを図ろうと熱く語りかけた。

開講式直後の審判員・記録員合同の講義では、平成24年度のルール改正のメインとなるクローホップやリーピングに関し、配られた資料やビデオなどにより分かりやすく説明されると、このあと審判・記録それぞれに分かれて、初日の講義が行われた。

審判の部では、不正投球に関する研修に時間が割かれた。また、2日目の実技研修では、この不正投球や球審のジェスチャー、試合形式でのローテーションなど、基本動作を中心に全員で確認。一方、記録の部では、全国大会や日本リーグなどでの統一事項、スコアカードの点検等についての意識統一が図られると、受講生たちは変更点の習得などに置いていかれまい！と、講師陣の説明に熱心に耳を傾けていた。

現在、静岡県の審判員登録者数は全国2位、記録員に関しては全国トップとのこと。頭数だけではなく中身もトップレベル！ということを示すためにも、今回の受講生たちが各支部すべての審判員・記録員に対し、正確に伝達することが求められる。昨年、急きょ中止となった全国高校男子選抜大会(3月・富士宮)は、もう目の前。河津桜が咲き乱れる頃、今年の「球春」を迎えることになりそうだ。



